

件名	東浦町保健センター運営協議会	
日時	令和5年8月24日（木曜日）午後1時30分から午後2時55分まで	
場所	東浦町文化センター 第2会議室	
出席者	委員	山本原嗣（会長）、岡本嘉仁（副会長）、長坂潔道、坪井信二、水野善久、恒川渉、山崎宏子、小田友武、加藤美年子、田近美由紀、梶山博史、尾関拓也
	事務局	鈴木健康福祉部長、小田健康課長、小島課長補佐兼健康係長兼子育て世代包括支援センター係長、成田成人保健係長、増田主事
欠席者	なし	
傍聴者	1名	
内容	1 あいさつ 2 議題1 令和4年度東浦町保健センター事業実施状況について 3 議題2 令和5年度東浦町保健センター事業計画について 4 その他	
記録		
事務局	あいさつ 傍聴者の確認	
町長	あいさつ 町長になろうと思った理由の一つに、東浦町は多くの可能性を秘めている素晴らしい町だというのがある。古き良きものを守って健康で安心して暮らせる町、住んでいて楽しい町、未来に向けて希望を持って変わっていく町にしていきたいという思いがある。その中で、医療・福祉・行政の連携をこれまで以上に深め、健康に長く暮らせる町となるよう環境を整えていきたいと思っている。本協議会では、健康でいきいきとした自分づくり・家庭づくり・町づくりという、本町が目指す基本理念を促進するために、委員と共に健康づくりを地域社会に広げ、健康で安心して暮らせる町を目指す。	
事務局	委員の委嘱	

	出席者自己紹介 会長選出
委員	会長に医師である山本委員を推薦。
事務局	異議がないため、会長は山本委員に決定。副会長は昨年同様岡本委員。会長に議事の進行をお願いする。
会長	出席委員 12 名を確認し、会議の成立を確認。 議題 1 の説明を求める。
事務局	議題 1 「令和 4 年度東浦町保健センター事業実施状況について」を説明。
会長	質疑を求める。
委員	がん検診受診率が目標値に達していない、麻しん風しん予防接種が国は 95%に対し町は 97%実施できているなど、何かしら目標値がある。その中で、予定よりうまくいっている事業、改善が必要な事業はどれか。
事務局	がん検診の受診率は国の目標が 50%と高いが職域を含んでいる。受診率の向上に向けて検討している。
事務局	母子保健事業において、令和 4 年度以前まで新型コロナウイルスの影響で事業ができないことが多々あった。令和 4 年度から再開し、今後は各種教室を助産院に委託して内容を充実していく。受診率が高い赤ちゃん訪問は父親と一緒にいけるよう土日での対応など、より様々な形で実施できるよう検討していく。
委員	筋力アップ教室は保健センターで行っていないのか。
事務局	保健センターで行っていた男性のためのらくらく筋力アップ教室は令和 2 年度で終了した。現在は元気アップ教室や筋力トレーニング教室としてあいち健康プラザで開催している。
委員	特定健診は県内でも受診率がトップクラスであり、コロナ前の令和元年度と比べると戻りつつあるが、未だ少し低めのため今後を期

	<p>待。特定健康診査受診前健康啓発事業として、過去にスマホ de ドック事業を実施していた。令和3年度までとした理由は。</p>
事務局	<p>若年層の健診受診率が低いことの対策として実施していたが、対象者に対して受診率が低く、事業を行っても健診を受ける人がかなり少なかった。そのため別の方法へと見直しを行うため中止した。</p>
委員	<p>特定健診について、初回面接と最終評価を比較すると、動機づけ支援は1～2%の差であるのに対し、積極的支援は10%程度と差が大きい。この違いは。</p>
事務局	<p>動機づけ支援に比べて重い積極的支援は毎年同じ者が対象となるため、最後まで続かないケースが多い。どのようにすれば最終評価までいくよう改善できるのかが課題。</p>
委員	<p>子どもの性教育について学校では後退気味だが、いのちを大切に する教育として保健センターから勧めるのは良いこと。特別支援学級で行うことにも意味がある。資料によると令和4年度は西部中学校の特別支援学級では行っているのに対し、学年ごとでの実施はなくなったのか。</p>
事務局	<p>いのちを大切に する教育は、学校からの依頼を受けて助産師が指導を行っている。各学校においては別の講師を依頼して独自でも実施している。保健センターに依頼があったのは特別支援学級に対してのみだったため、資料に記載はない。</p>
委員	<p>特別支援学級の子どもは増加しているため、実績をもとに他の学校でも実施できるとよい。担任は扱いに慣れていても、他者との距離感がわきまえられていない子など特殊な例も多いため。</p>
事務局	<p>実施後各学校に実績報告をしているため、他の学校からも依頼があれば実施する。</p>
委員	<p>乳幼児健診未受診者の理由は。医療機関からの連絡票は具体的にどのような内容か。 また、全体を通して町として自慢できる点や気になる部分、他市町で実施できているが東浦町でできていないものは。</p>

事務局	<p>未受診者が受診に来られない状況は、仕事の休みが取れない、または健診の日に体調不良になったというケースが多い。未受診者への対応としては訪問や面接が多いが、母が健診の時間に来られない場合は、保健センター職員が夕方などに対応することもある。</p> <p>母子支援連絡票は出産をした病院からのもので、育児不安が大きいという内容が多い。母子健康手帳の交付から把握をし、すでに知っている妊婦が大半。だが、病院から出産後に早期に連絡をもらうことで、保健センターでも早めに母に連絡をして困りごとや支援の状況を確認できる。電話や赤ちゃん訪問にて早期に介入し、その上で母の不安が強い場合は養育支援訪問で定期的に訪問するなどの支援を行っている。</p> <p>母子保健法で定められている乳幼児健診は4ヶ月児と1歳6ヶ月児と3歳0ヶ月児の健診で、大多数の市町で行っている。東浦町ではそれ以外に7ヶ月児と歯っぴー相談と2歳2ヶ月児歯科健診を行い、定期的に母に会って子の発達を確認し、心配事や育児状況の相談に乗るなど実施している。健診のみに関わらず妊娠中の電話や訪問、出産後の電話など定期的に母にアクションをとり必要な支援に繋げるなど、切れ目ない支援をしている。</p>
事務局	<p>町として自慢できる事業としては、健康課だけでなく健康福祉部と商工振興課が横の繋がりを持ち、骨折予防プロジェクトを行っている。ご当地グルメ開発など色々な角度から事業展開をして、骨を強くする事業に力を入れている。</p> <p>また、無関心層に対しては、どう働きかけてもなかなか響かないため、どのようなアプローチができるのかが課題である。</p>
委員	<p>プライベートゾーンについて、小学校高学年に教えているようでは遅い。保育園時代から教育をしていかなければならないが、保育園で独自に行っているのか、保健センターとしては働きかけていないのか。</p>
事務局	<p>保育園でも近年、性に関することをどういう形で園児に伝えていくべきか悩んでいる。保育士を対象にした性に関する教育ができないか相談をしている。今後については児童課とも連携をしながら進めていければと考える。</p>
委員	<p>元気はつらつプランの平均年齢が令和2年度は90.0歳、令和3年度が78.4歳、令和4年度は74.3歳となっている。令和2年度の</p>

事務局	<p>数字は正しいか。また、令和2～4年度の参加者は重複しているのか。</p> <p>令和2年度の平均年齢については、持ち帰り再確認する。参加者の重複については、短期集中型の介護予防として機能訓練を行うものであるため、基本的には重複しない。</p>
会長	<p>議題2の説明を求める。</p>
事務局	<p>議題2「令和5年度東浦町保健センター事業計画について」を説明。</p>
会長	<p>質疑を求める。</p>
委員	<p>令和5年度から東浦高校の敷地内に千種ろう学校の分校ができた。東浦高校ではいのちを大切にしているが、幼稚園児及び小学生に該当する生徒がいる千種ろう学校でも同じ働きかけをする予定があるか。</p>
事務局	<p>分校ができる前は千種にあるろう学校に住民が通っていたため、ろう学校の先生と教育相談などを通して情報共有をしていた。分校は令和5年4月に開校されたばかりのため、どのような連携ができるかは今後相談をしていく。</p>
委員	<p>東浦町では独自の健康づくりリーダーを養成しているが、愛知県でも健康づくりリーダーが3,200名程いる。東浦町には52名いるため、県と町で協力をしていきたい。愛知県ではリーダーの高齢化が進んでおり、新規の掘り起こしや質の向上を狙っている。</p>
委員	<p>高齢者の認知症予防に関する事業を考えるべき。</p>
事務局	<p>令和5年度は新型コロナウイルス感染症の予防対策に気を付けながら教室を再開している。令和4年度から再開したものもあるが、今年度から本格実施といえる。今年度及び来年度に向けて、どのような事業をしていくのが住民にとって良いのか検討していく。</p>
委員	<p>資料内に事業に関する記述はないのか。</p>

事務局	<p>認知症に関してはふくし課や社会福祉協議会でも行っている。例えば、認知症サポーター養成講座は社会福祉協議会が積極的に行っている。資料は健康課で行う保健事業に関する内容のみであるため、認知症についての内容は少なく見えるが、町全体としては行っている。</p>
事務局	<p>その他、保健センターの運営等について、意見・要望を求める。</p>
委員	<p>対面で行う運営協議会の開催は3，4年ぶりであったが、対面で行えない期間に不都合はあったか、そもそも対面でやる必要性のないものだったのか。</p>
事務局	<p>この保健センター運営協議会に限らず、どの団体においても同じことが言える。新型コロナウイルス感染症により色々な会議の形態が変化しているが、今回のように対面で行うことで表情を見ながら協議をした方が良いこともある。その時々的情勢によってWeb開催や対面など方法は考えていくが、基本的には今後も対面で行ってきたい。</p>
委員	<p>東浦町では第2期の健康プラン21について令和4年3月に中間評価をした。策定時と中間時での調査について、870人程度によるアンケート結果を指標に作成されている。しかし、住民全体となるとそれよりも遥かに多い数になる。例えば特定健康診査のデータは愛知県にも町のデータとして提出しているように、一体的実施での後期高齢者のデータ等についても、より大きいデータで事業の効果を見ていくとよいのでは。</p>
事務局	<p>来年度、再来年度にかけて、第3期の計画を策定していく予定。そこで様々な意見を参考にしながらより良い計画にしていきたい。</p>
委員	<p>数年前からこころの保健室を行っているが、新型コロナウイルス感染症の影響で相談数に変化はあったか。</p>
事務局	<p>保健センターのみで言えば、感覚的に莫大に数が増えたようには感じていない。それなりに相談数はあるが、新型コロナウイルス感染症の影響と言い切れるほどの変化はない。</p>
委員	<p>以前、用事があり保健センターに来所した際、こころの保健室の</p>

事務局	<p>ポスターが貼られているのを見て、自分が住む地域にもあればと感じた。「ここへ来て相談すればいい」と思えるため、目に付くところに掲示されているのは非常に良い。どうしたらよいか迷っている時に、保健センターでは聞いてくれると思うこと自体が安心に繋がる。しかし、知らない人も多いただろうとも考える。迷った時にどこへ行けばいいのかわからない、という話も聞いたことがある。当事者でなくても、その周りの人が相談先を知っていれば教えることもできるため、より周知できるとよい。</p> <p>周知方法を改めて考えていく。</p>
委員	<p>相談件数が多すぎるのも、住民の健康が損なわれている証拠になってしまうのでは。</p>
事務局	<p>住民全員が健康でいてほしいというのが一番の願いである。</p> <p>閉会</p>